

点字楽譜の記号

(弦楽器)



ビー・ミュージック

目次


1.	臨時記号.....	3
2.	拍子、調号.....	3
3.	小節線、複縦線、終止線.....	6
4.	集合音符.....	6
5.	スラー.....	7
6.	タイ.....	7
7.	指記号.....	8
8.	弦番号.....	9
9.	フレット番号、セーハ.....	9
10.	和音の書き方(音符法1).....	10
11.	部分け、内分け.....	11
12.	楽譜中のカッコ.....	12
13.	小節番号.....	12

1. 臨時記号

音符には臨時記号が付くことがあります。臨時記号は 5 種類あります。



# シャープ	半音上げる	
b フラット	半音下げる	
x ダブルシャープ	全音上げる	
 ダブルフラット	全音下げる	
♮ ナチュラル	臨時記号なしに戻す	



2. 拍子、調号

ほとんどの拍子記号は 2 個の数字で表されています。五線譜では縦に 2 個書き並べます。点字では上の数字を先に、下の数字は下がり数字でその後になります。後の下がり数字は単位となる音符の種類、先の数字はその音符の数です。例えば  は 4 分音符 2 個が 1 小節になります。

 4分の4拍子	
 4分の3拍子	
 8分の6拍子	
 8分の12拍子	

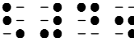
2種類の特種な拍子記号があります。

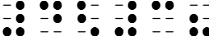
 コモン・タイム(4分の4拍子) 

 カット・タイム(4分の2拍子) 

五線譜ではコモン・タイムはCと書きます。カット・タイムはCに縦線が入ったマークを書きます。

調号は曲中の特定の音符が半音高い、または低いことを示す記号です。シャープまたはフラットの数で表します。調号3個までは書き並べ、4個以上は数と調号1個で表します。調号、拍子の順になります。

1フラット 4分の4拍子 

4フラット 8分の3拍子 

3 シャープ カット・タイプ ♯ ♯ ♯ ♯ ♯




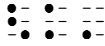


シャープの調号と半音高くなる音符	
♯	ファ
♯ ♯	ファ ド
♯ ♯ ♯	ファ ド ソ
♯ ♯ ♯ ♯	ファ ド ソ レ
♯ ♯ ♯ ♯ ♯	ファ ド ソ レ ラ
♯ ♯ ♯ ♯ ♯ ♯	ファ ド ソ レ ラ ミ
♯ ♯ ♯ ♯ ♯ ♯ ♯	ファ ド ソ レ ラ ミ シ

フラットの調号と半音高くなる音符	
♭	シ
♭ ♭	シ ミ
♭ ♭ ♭	シ ミ ラ
♭ ♭ ♭ ♭	シ ミ ラ レ
♭ ♭ ♭ ♭ ♭	シ ミ ラ レ ソ
♭ ♭ ♭ ♭ ♭ ♭	シ ミ ラ レ ソ ド
♭ ♭ ♭ ♭ ♭ ♭ ♭	シ ミ ラ レ ソ ド ファ

3. 小節線、複縦線、終止線

小節線とは曲を決められた拍で区切った単位です。区切りには小節線があります。

曲が変化するところでは複縦線で区切ります。曲が終わるところには終止線があります。

 小節線	 (1 マスあけ)
 複縦線	
 終止線	

4. 集合音符

16分音符以下の短い音符が3つ以上続くとき、拍の区切りが分かりやすいように表す書き方があります。

最初の音符は通常の間隔で表し、後の音符は36の点を省略します。つまり、8分音符と同じ点字になります。

次のようなときは紛らわしいので集合音符にしません。

- (1) 集合音符の後に8分音符が続いてしまうとき
- (2) 音符の長さが異なるとき
- (3) 区切りが拍の切れ目でないとき

(4) 途中で休符があるとき

(5) 途中で改行があるとき

集合音符の最初のみ休符のときは集合音符で表せます。

5. スラー

音符の間にスラーがあるときは、音を滑らかにつないで演奏します。

スラー記号 :: はかかっている音符の間にあります。

5 音符以上の音符にスラーがかかっているときは、1 番目と 2 番目の音符の間にスラー記号が 2 つ :::: 、最後の音符の前に 1 つ :: あります。(4 音符以上の時としている点訳もあります)

スラーが 2 重にかかっているときなどのために、フレーズスラーという書き方もあります。最初の音符の前にフレーズスラー開始 ::: 、最後の音符の後にフレーズスラー終了 ::: と、かかっている音符が外側から囲まれます。

6. タイ

音符の間にタイがあるときは、音を切れ目なく延ばして演奏します。必ず同じ高さの音符同士がつながれます。

タイ記号 :: はかかっている音符の間にあります。つなげる音符が和音同士の場合は和音のタイ記号 :: になります。

2つの音符の間にタイとスラーが両方あるときはスラー、タイの順になります。

7. 指記号

指記号は音符の後にあります。左手の指記号、右手の指記号の順です。右手だけのときは :: が前にありますが、両手の指記号があるときは :: は省略されます。

左手の指記号 :: は音符	
1 (人さし指)	::
2 (中指)	::
3 (薬指)	::
4 (小指)	::
5 (開放弦)	::
右手の指番号	
p (親指)	::
i (人さし指)	::
m (中指)	::

a (薬指)	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
ch (小指)	⠠⠠⠠⠠⠠⠠

両手の指記号の例 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

8. 弦番号

弦番号は音符の前です。

弦番号	
1 弦	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
2 弦	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
3 弦	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
4 弦	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
5 弦	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
6 弦	⠠⠠⠠⠠⠠⠠

9. フレット番号、セーハ

フレット番号も音符の前です。弦番号もあるときは、弦、フレットの順です。

セーハ(複数の弦を1本の指で押さえる)のときはフレット番号の前に⠠が付きます。全セーハ(すべての弦を1本の指で押さえる)、

半セーハ（途中までの弦を1本の指で押さえる）を区別するとき
は、全セーハは ̣ 、半セーハは ̣ がフレット番号の前に付きます。

フレット番号	
1フレット	̣
2フレット	̣
3フレット	̣
4フレット	̣
5フレット	̣
6フレット	̣
7フレット	̣
8フレット	̣
9フレット	̣
10フレット	̣
11フレット	̣

10. 和音の書き方（音符法1）

同じ長さで同時に演奏する複数の音符を和音といいます。基準とする音符の後に、同時に演奏する他の音符を「下がり音符」で表します。

下がり音符は 2, 3, 5, 6 の点で音符の高さのみを表します。

基準の音を最高音にするか、最低音にするかは、点訳凡例に明記されています。

下がり音符	
下がり音符 ド	⠠⠨
下がり音符 レ	⠠⠩
下がり音符 ミ	⠠⠪
下がり音符 ファ	⠠⠫
下がり音符 ソ	⠠⠬
下がり音符 ラ	⠠⠭
下がり音符 シ	⠠⠮

下からドミソの和音は、

基準の音を最低音としたとき ⠠⠨⠠⠪⠠⠬

基準の音を最高音としたとき ⠠⠬⠠⠪⠠⠨

11. 部分け、内分け

2 つ以上の異なるメロディーを 1 小節で同時に演奏するときは、和音で表すことができません。そのときは、

部分け ⠠⠨⠠⠪

内分け $\text{♩} \text{♩} \text{♩}$

部分けの部分適用 $\text{♩} \text{♩} \text{♩}$

という記号で表します。例を示します。

基準の音を最低音としたとき $\text{♩} \text{♩} \text{♩} \square \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \square$

部分けの前の全音符ドと、部分けの後の4分音符ミは同時に演奏します。

基準の音を最高音としたとき $\text{♩} \text{♩} \text{♩} \square \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \square$

部分けの部分適用の前の4分音符ソと、部分けの部分適用の後の2分音符ドは同時に演奏します。内分けて区切られた3拍目からは1つのメロディー ミ レになります。

12. 楽譜中のカッコ

原本で音楽記号にカッコがついているとき、 $\text{♩} \text{♩}$ でその記号の前後を囲みます。

例えば通常は中指で弾くが、薬指で弾いてもよいとき、

$\text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩} \text{♩}$

のように表します。

13. 小節番号

小節番号は曲の区切りの良いところで行頭から2マス空けて数符なしの番号で表されています。不完全な拍数の小節が始まる時、最

初の小節番号は0になります。